

# SCB X(SCB\_n)

## DX 戦略を推進。デジタル取引による貸出・収益が急成長。先端金融分野強化で AIS や CP グループと提携

タイ | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG SCB:TB | REUTERS SCB\_n.BK

- 2024/12期3Q（7-9月）は、総収益が前年同期比2.4%減、純利益が同13.2%増。経費率の低下と不良債権関連費用減少が利益面で貢献。
- 事業の選択・集中に伴う宅配アプリのロビンフッドから撤退も経費率改善に寄与。純手数料収益の伸び率拡大が当面の課題。
- プラットフォームおよびデジタルアセット関連のGen3事業の成長で金融テクノロジー企業として躍進できるかが今後の鍵を握ろう。

### What is the news?

10/18発表の2024/12期3Q（7-9月）は、総収益が前年同期比2.4%減の422.95億THB、純利益が同13.2%増の109.41億THBだった。経費率が同1.1ポイント低下の41.6%（宅配アプリのロビンフッド停止に係る一時的要因を除く調整後ベースで40.9%）へ改善、予想クレジット損失が同10.4%減の109.67億THBだった。預貸利ざやの純金利マージン拡大を背景として純金利収益が引き続き増加したものの、非金利収益の伸び悩みが響いた。利益面では経費率の改善および不良債権関連費用の減少が貢献した。前四半期比は、総収益が2.2%減、純利益が9.3%増、貸出の質に関する9月末の不良債権比率（グロス）が0.04ポイント上昇の3.38%へ悪化した。

3Qの総収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比3.5%増の326.35億THB。9月末の貸出金残高が同0.9%減少したものの、純金利マージンが同0.17ポイント上昇の3.91%に拡大した。②純手数料その他収益は同7.5%減の99.85億THB。ウェルスマネジメントおよび各種取引手数料は堅調も、ローンおよびクレジットカード手数料が同13%減収、生命保険の窓口販売が同17%減収となったことが響いた。③投資およびトレーディング収益は前年同期の11.41億THBから▲3.24億THBへ赤字転落。

### How do we view this?

通期会社計画は、貸出残高の伸び率が前期比3-5%増（1-9月実績:0.3%増）、純金利マージンが3.7-3.9%（同:3.9%）、純手数料収益伸び率が同1桁前半～半ば（同:7.8%減）、経費率が43-45%（同:調整後ベース41.4%）、信用スプレッドが1.60-1.80%（同:1.80%）と従来計画を据え置き。貸出は質重視の観点から伸ばしにくく、純手数料収益の伸び率が課題となろう。

SCBXは、①SCB（サイアム商業銀行）を中心として資産運用も含む銀行サービスの「Gen1」、②クレジットカード、保険販売などを手がける「カードX」、自動車ローンなどを展開する「オートX」などを含み消費者向けおよびデジタル金融サービスを提供する「Gen2」、③プラットフォームおよびデジタルアセット関連の「Gen3」の事業部門から構成される。Gen3の主力だった宅配アプリのロビンフッドは、9月末、同アプリ運営の傘下企業「プル・バンチャー・カンパニー」の全株式20億THBで売却したと発表。4-6月期に計上した減損損失に追加して一時的な特別損失を計上する見通し。Gen3部門の成長により銀行の枠にとられない金融テクノロジー（フィンテック）企業として躍進できるかどうか今後の鍵を握ろう。

### 業績推移

※参考レート 1THB=4.51円

事業年度	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12F	2025/12F
当期利益(百万THB)	35,590	37,546	43,521	40,928	43,495
EPS(THB)	10.47	11.12	12.93	12.26	13.02
PER(倍)	9.98	8.19	7.50	9.26	8.72
BPS(THB)	129.86	136.98	141.99	144.66	147.31
PBR(倍)	0.80	0.66	0.68	0.78	0.77
配当(THB)	4.06	6.69	2.50	9.54	10.00
配当利回り(%)	3.89	7.35	2.58	8.41	8.81

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(THB) **9.54**（予想はBloomberg）  
 終値(THB) **113.50** 2024/11/5

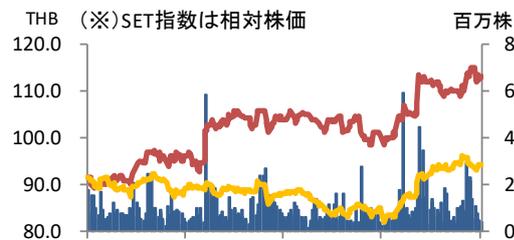
### 会社概要

1904年にラーマ5世国王の兄弟であるマヒサラ・ラジャハルダヤ王子のパイロットプロジェクトのもと、タイ初の国法銀行「Book Club」として創業し、タイ王室系のサイアム商業銀行となった。同銀行は、タイを代表するユニバーサルバンクで、リテール向け、企業向けに幅広い金融商品・サービスを提供している。

2022年、同銀行および資産運用会社に加え、クレジットカード、保険販売などを手掛ける「Card X」、自動車ローン、消費者金融を営む「Auto X」、有望なベンチャー企業に投資する「InnovestX証券」や「SCB 10X」などから構成される金融テクノロジー・ビジネス・グループとして現社名に変更。「最もあこがれる地域金融テクノロジー集団」を目指し、特に金融企業とデジタル技術に重点を置いて、戦略的イニシアチブの開発と実行を促進。これには、新しいビジネス機会の追求、M&A、戦略的投資、パートナーシップ、売却が含まれる。

### 企業データ(2024/11/6)

ベータ値	0.88
時価総額(百万THB)	382,167
企業価値=EV(百万THB)	#N/A/N/A
3ヵ月平均売買代金(百万THB)	1,246.5



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

### 主要株主(2024/11)

株主	(%)
1.King Vajiralongkorn	23.58
2.KRUNG THAI ASSET MANAGEMENT PCL	23.53
3.VAYUPAK FUND I	23.32

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

### リサーチ部

笹木 和弘  
 +81 3 3666 6980  
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。